

令和5年度 第3回学校運営協議会抄録

日時:令和6年2月19日(月)18:00～ 場所:本校 会議室

出席者:大岩(株式会社トウカンソーイング)、熊谷(岡山大学教授)、白髭(玉野備南高校長)、角田(後援会会長)
鶴田(社会福祉法人四ツ葉会)、藤原(適応指導教室副室長)、藤原(市商工観光課)、藤原(保護者代表)、東(玉野 SDGs みらいづくりセンター)、三澤(日比中学校長)、的場(市教委学校教育課長)、以上が委員。事務局:教頭、事務長、教務課長、生徒課長、進路課長、普通科長

1. 開会 (校長挨拶)

学校運営協議会の皆様で3年間を通じて熟議した4修制を基本とした新しい教育課程を策定した学校研究が教育弘済会から「優秀」を受賞しました。併せて持続可能な就労を目指した「高校における通級指導」の研究が「優秀」を、対人関係が未熟な生徒の中途退学を防止する「生徒指導プログラム」の研究が「優良」を受賞し、成果は全県に普及することになりました。



(熊谷委員は研究室からリモートで出席)

これら3本の研究を基に、玉野備南のこれからの10年をイメージしながら、生徒にとって魅力的な学校づくりを目指していきます。学校運営協議会の皆様にはその実現に向けての御助勢をお願いします。

2. 学校説明と協議

(1) 教育活動の概説と外部の総合評価

Aは「目標を大きく上回った」、Bは「達成できた」

学校経営目標(抜粋)	Aの割合	Bの割合	総合評価
◆ 学ぼうとする態度や自立に向けた基礎学力の育成	100%	0%	A
学び直しのレベルに応じてクラス分けをもう1段階加えて3段階とし、生徒の困り感に寄り添ったきめ細かな指導を行った。総探や英語で生徒のプレゼンの場面が多くなっている。			
◆ マナーやルールを守り、他者を思いやる心の涵養	0%	100%	B
増加した遅刻の対策に臨時集会を開いたり、月間の精勤・皆勤賞を新たに設けたりした。生徒の立ち直りをチーム学校として支援する「生徒指導プログラム」を事案ごとに策定した。			
◆ より良く生きる態度の育成とキャリア教育の推進	100%	0%	A
就労への意識付けを早期に行うことをねらいとしたインターンシップを2年次から実施した。移行支援会議や内定先企業との連絡会や就職未決定者への個別支援を行っている。			
◆ 実態把握と通級等の特別支援教育や教育相談の推進	100%	0%	A
校内研修に精神科医を招くなど、外部機関から専門的知見に基づく助言を得た。通級指導の取組を研究論文にまとめ、県内外の学校訪問を受け入れたり、助言者を務めたりした。			
◆ 生徒にとって学びやすく魅力的な学校に関する研究	100%	0%	A
学校運営協議会の熟議を通して考えた4修制を基本とした新しい教育課程表を策定した。体育館照明のLED化、高山ドームの整地、冷水器の設置、危険箇所の修繕等を進めた。			

今年度の取組の説明後、出席した委員の評決の割合から、「総合評価」は上記の結果となった。

(1)についての主な協議内容(一部を抜粋)

【委員 A】学校見学と文化祭に参加したが、子どもたちが生き生きと活動しており、成長が感じられた。

【委員 B】学校評価アンケートは生徒、保護者、教職員の評価が一致し、同じ思いであることが現れている。

【委員 C】先生方が生徒にいつも寄り添った対応をしてくださっていることを保護者として実感している。

【委員 D】企業見学やインターンシップを実施して、就業への意識づけと早期離職を防ぐ取組をしている。

【委員 E】先生方が目指す生徒像を共通理解し、事務室も一体となって教育活動を行っている。

【委員 F】備南の教育は他校にない特長があり、玉野市の教育において大きな意味を持っている。

【委員 G】先生方が生徒一人ひとりを大事にしている。生徒、保護者、教職員の評価が一致していることは非常に良いことである。

【委員 H】インターンシップは事前に連絡を取り丁寧に行っている。ボランティアをより活性化させてほしい。

【委員 I】先生方の負担が増えているのではないかと危惧される。教員数増になればよいが。

(2)4修制への新しい教育課程の説明と協議

卒業後の持続的な就労を実現するために、午後からの登校で4年卒業をベースとしたカリキュラムを基本としているが、週4時間午前中に商業科目を受講し、検定取得やインターンシップ等への取組による増加単位を行うことで、3年でも卒業できる教育課程を考えている。

また、午前中には希望者対象に、通級指導やSST(ソーシャルスキルトレーニング)、進学希望者対象の講座等でニーズに合わせた科目を学ぶことができる。

【委員 E】現在は通信制への進学も多くなっているなかで、午後からの登校で通いやすく、午前中に希望者に魅力のある授業を受けられることは、先進的な取組と言える。

【委員 G】午前中の授業を受け単位を取得したが、午後の授業で単位取得できない場合はどうなるのか。

⇒【事務局】必修科目は午後にあるので、それは必ず単位取得をしなければならない。

その他の科目は、卒業要件を満たすだけの単位取得ができていればよい。

【委員 I】離職した卒業生が授業を受講することはできるのか。

⇒【事務局】現在も聴講生制度があり、可能である。

【委員 J】特定の教員の負担が大きくなってしまう。人事配置をしてもらいたい。

【委員 B】定通併修制で県立高等学校の通信制との連携が課題ではなかったのか。

⇒【事務局】3年でも卒業できるように定通併修制以外の自校の取組(資格取得、インターンシップ制度、実務代替制度)を整備した。4修制でありながら3年で卒業できる道は確保している。

【委員 B】4修制へはいつ移行するのか。

⇒【事務局】R6年度中に全県周知し、R7年度から4修制を基本とした新教育課程に移行する。

【委員 A】検定等は通信制に通わないと単位が取れないのか。商業の検定は難しいのか。

⇒【事務局】本校の授業で検定の勉強はできる。現在も商業科目の授業はあり、検定についても本校の生徒が取得しているので、十分に取得可能なものであると考える。

3. 閉会 会長挨拶

臥竜祭を参観し、生徒が生き生きとしていた。先生方が見守っているおかげでいい学校だと感じた。